

昭和19年2月1日（火）

昨切手請求。承認額以内請求せり。みわさん脚気か腎臓か脚手顔共、膨れ上がる。悲観泣き声ばかりさる。二三日来、朝七時までには朝食を済ます例となす。夕、うどん頂く。八時を過ぐ。夜十二時湯煖房を造り、零時三十分睡る。明日、目標突破の祝賀として味飯を振舞ふこととす。丸久へ衣料切符を遣った礼として、生肉百匁売って呉れ、呉服屋より小僧が特に得意先に現物を搬入するを利用、坊やに着物を購入。

昭和19年2月2日（水）

曇り。午後降雪に变ず。森田さん前田さん料理して味飯を作る、一升五合。外に里芋、菟薺（こんにゃく）、人参等にて煮付けと白菜のおひたし、胡麻かけ等。前田さん手際鮮やかかなり。荒巻さん早く帰宅。降雪四五寸となる。

昭和19年2月3日（木）

各線障碍脹（ふく）れ減退、みわさん大いに喜ぶ。然るに咳は一向恢復せず。市内人出稀少。局務閑散。余、電話書類入れ紙函貼る。夕、小豆に黒砂糖多量入れ造り、夕食に餐す。餅入りとす。

昭和19年2月4日（金）

時々晴れかけたりしも、再び曇り。朝、飴餅残り頂く。木炭配給を受く。切手類請求みわさん行かる。請取りには余行く。道路泥濘、坊や連れ行かず。嘗て相談の豊大工、さし板類を材木屋より購入に対し売り呉れず。其の為、遅れたりと云ふ。雪は道路上は殆ど消へたり。

昭和19年2月5日（土）

街路乾かず、掃除取止む。十時頃大工（井の口の職人、箆笥造りを主とす）来たり。衡器置き台二ヶ所、公衆電話室扉錠前、事務室出入り口錠前、炊事場流し前棚、神棚、ラジオ置き場、炊事部屋物置棚、襖サン、二階硝子戸、椅子裏板等々。四時頃帰る。曇天。道子より小包受取りの返事来る。貢の月給来たらず云々。悲観した泣き言、百出。

昭和19年2月6日（日）

午前一時快晴、後曇り。坊寝小便二度、蒲団乾したるも乾き切らず。朝、雑煮。夕、里芋皮剥き。昨蜜柑求め来られ、角野さんに大なるもの三十一個、先日足袋を頂きし礼に持行かれ、昨大工の子供に坊やに分与さる。金曜日夜、絆創膏をみわさん尋ね（手指の霜焦げの部に貼る為、先日一円分求めらる。夫れが所在不明となりしもの）、偶々澄子より送り越せし家伝薬、腫れ物一切特効のもの猶一袋残せしを発見。再び酒を温め一所に飲む。此の夜にて二十四時間を経過す。油濃き物、青魚等、食禁多かりしも、此の夜より解除。而して頑癩なりしお腫も全く終熄せし観あり。薬の利き目か自然の配剤か。

昭和19年2月7日（月）

電線障碍復旧せず。税務署報告物、漸く此日発送、了す。みわさん半日絶食、効果ありしと聞く。余り過食せぬことが必要と認めらる。

昭和19年2月8日（火）

防空演習。午後より余参加、三時終了。為藤氏の編み帯

三角巾の使い方の実演あり。夜は燈火管制。漏火を発見されたるに応答せざりし為、此夜は済みしも後難を惧れ居たり。

昭和19年2月9日（水）

朝、交番より召喚あり。余行く、事務室よりの漏火を聞き恐縮。始末書を徴さる。あれ程呼びしに、聞こえぬ筈なしと云ふ。今日も曇りがち。

昭和19年2月10日（木）

切手請求払込み。みわさん受取りに、余、坊連れ行く。萱津町高橋大佐（二階級昇進）の英霊凱旋、国旗掲揚。二時頃より切手受取りに行く。今、神様のお祭り。飯局して坊神様行き、既に後の祭り。終了を告げ誰も広前に居らぬと云ふ。餅や神酒を頂く積もりにてお詣りするなら、行違え多き結果を招来するは必常なり。

昭和19年2月11日（金）

紀元節、建国祭。聖戦後三度目の佳節。例により種々表彰ありし旨、新聞は報ず。珍しく暖かなり。みわさん坊を連れ湯に行く手筈、其れが狂ふて行かず「死にたくない」と云ふ。余坊連れ一年振りで湯に行き、手拭いと足袋を失ふ。往復共おん負したる為、足袋なきに気注かざりし。巖より葉書。昨午前一時女児分娩、母子健康と。みわさん外出。丸吉より八円余の子供着物求め来らる。北浦町に行かぬ代わりに、湯に行くと云ふことなりし。上本さんよりお強飯贈り、子供安産の御祝いをせられたるに対し、班長さんより蜜柑求め来らる。其の内よりお祝いとして持行かる。坊公園地に行き、富士パンに立寄りカ

ウヒーにパンを添え頂きたる由。十五才元服式を、中津神社にて本年より挙行。市長より元服章を渡さる。

昭和19年2月12日（土）

曇り、午後より降雨。切手請求せず。栄町局に貯金保険の旬報を了す。大阪より返信未だし。余のお腫も、顎の下に出来た小腫物を以て終結を見るらし。森田昭ちゃん午後より帰省。

昭和19年2月13日（日）

朝降雨、後霽れる。風強く、雨雲吹払ふ。みわさん北浦町に坊連れ、蜜柑二十一をも加へ持行かる。次いで公園地富士パン、それより塩湯に二時間程つかり、南部校のすべり台にて遊び飯らる。午後四時を過ぐ。今朝穴、漸くに過剰受入の拾円を返して貰ひ、大朝を六銭にて求め来らる。風強きも快晴。

昭和19年2月14日（月）

朝吹雪、間もなく歇む。風強く、寒感凛烈。晴れ。切手請求、資金納付みわさん坊連れ行き、午後より余連れ行く。余の後よりみわさん年金勧奨に追隨。中津局前にて坊みわさんに渡し、切手受取り、余は飯る。みわさん富士パンに寄り用達し飯らる。下毛山手筋、降雪の為、電線障碍。

昭和19年2月15日（火）

大寒気、依然凛烈。栄町長臨局。戦時手当等請求す。物品税増高の為、市内市場店舗閉鎖、正札附換え。角野医に行かれた際、栗南瓜の種子を要求され、青海苔

を百匁求め来られ、野口氏に小包にて発送。交換することにせらる。切手五銭百枚、所在不明となる。神様に行き販らる。

昭和19年2月16日（水）

快晴なるも風強く、寒感極。切手請求せず。夕飯、余炊く。四時食す。次いで坊を連れ塩湯に行かる。うどん中殿より求め来らる。塩湯は頗る混雑したるらし。

昭和19年2月17日（木）

祈年祭。今年は、戦勝を得る言葉が祝詞中に加えられたる由。祈念祭は、新嘗祭と六月十二月に行わせらるる月次祭と共に、四大祭となって居る。「としごえのまつり」ともいふ豊穰を祈る祭りにて、天皇視察あらせらる。此日快晴。警察へ、昨年マッチを拾得、届出でたるものが満一年経過、此日貰ひに行かる。正午中食に坊を連れ、富士パンにパンとコーヒーを食べに行き、序でに警察に拾得品を貰ふと云ふ。此朝うどん、夕食にも残りのを余頂く。里芋調理す。牛肉二百匁求められ、百匁は牛乳屋に、百匁は門司白木崎局長へ送ることとす。白酒なく、5, 10為替にて返送することとなりたるに依る。牛乳屋は特にみわさんに買って呉れと頼まれ、丸久に相談して分けて貰ったもの。

昭和19年2月18日（金）

曇り、風寒し。三時頃夕食認む。前田さんより麴（こうじ）五六合頂く。豆茹で七時頃より飯堅作り、麴入れ甘酒造る。坊や塩湯行く。七時頃より降雨、雪となる。坊や八時、霰（みぞれ）を冒して飯局。岩尾さんより、かき餅

一袋頂く。何れもお婆さんの命日供養の為らし。此日切手請求にはみわさん、品物は余、請取りに行く。

昭和19年2月19日（土）

晴れたり曇ったり。甘酒麴不完全の為、あまり甘味を有せず。十一時より芋造り。牛蒡、人参等煮付け二階に遣る。午後一時までかかる、夫れまで昼飯待って貰ふ。午後一時四十分、岩尾さん別府行き。甘酒、お茶飲み茶碗に一杯づつ出す。余り甘からず、堅作りの俣出す。麴は前田さん宅の同製らし。昨日まで開会の不用品更生展覧会に、局員交代縦覧。みわさんは十七日、序でに観らる。此日巖より葉書。福岡よりも小包にて何か送り越せし由。命名は洋子（ひろこ）可なりと云ふ。裕子と命名せる由。森田昭子さん三時汽車にて、土産山程積み持行かる。四時より森田さん。勤券の為だからと、貝の實の配給にみわさん出勤さる。お婆さんの命日とて教会にお詣りさる。此の間に余、仏前に回向す。（道子は洋子隆子を主唱す）。

昭和19年2月20日（日）

朝来小雪降る。晴れたり曇ったり。十時頃まで坊や寝込む。起こせば小便して居る。紋平を穿かせ、十一時頃より北浦町に坊や連れ行かる。甘酒、巻柿3分の2、其の他色々持行かれたるらし。母堂と十八になる八重子の妹、及び姪（宮永）、但し姪は此朝、小豆飯や小餅等持ち見舞いに来れる由。其の餅を雑煮としたるを御馳走になりしと云ふ。三時頃飯宅。飯炊き蒔蘿草（ほうれんそう）（昨日教会より頂かれしもの）を煮て、四時五十分頃より夕飯食ふ。栄町に報告物作成。兵隊さん多数出征。婦人

会出勤、湯茶を振舞ふ。森田さん奉仕に行かる。風寒し。
昭子さん八時過ぎ来着。

昭和19年2月21日（月）

四時頃より降雪。みわさんゴム長靴にて神様行かる。余
雑炊を造り待つ。六時四十分頃飯らる。午後まで降雪、
時々歇む。又時々陽も照る。昨朝大豆煮、今日亦煮る。
岩尾さん昨夜飯宅さる。風寒し。夜七時坊を負わる。余
りに何かと悪戯するに閉口したる結果、早く寝かす為なり。
負うて五分も経過せぬに眠る。

昭和19年2月22日（火）

請求みわさん坊や連れ行かる。昨、過超金拾円不足の
旨電話あり。欠損となる。みわさん朝出掛け、午後一時
近く飯らる。中殿にてうどん求め来らる。餅二ヶ、卵飯の
握り飯をも貰ひ来らる。牛乳二合配達あり。人口調査申
告、此日午前零時現在にて記入。別に国民登録の方は、
六十才の男、四十才の女まで。夫れ以上必要なし。余
等無資格にて申告を要せず。今日午後四時、市内出身
英霊凱旋、吊り旗を掲ぐ。業務用煉炭、酒等の配給あり。
みわさん出勤さる。森田さん仕事都合にて出られず。此
の間、余中津局行。今日曇天、寒気多少緩ぶ。朝飯炊
き神詣で。其の間、余汁を煮、豆を温め神仏に供す。

昭和19年2月23日（水）

快晴。坊や早起き、珍しく六時半朝餉を共にす。坊や紋
平洗ふて乾かす。夕方まで完全に乾燥す。うどん屋の近
所まで行き餅を貰ふて来る。夕方より曇天。米注文し麦
持来らる。昨、余配給所に行き麦持行く積もりなりしも、

売切れとあり空しく販る。明日改めて購入の手筈す。夕方より曇り。温度、稍上昇。

昭和19年2月24日（木）

朝来降雨。切手請求せず。昨神様の奥さんから頒与申出あり、俵一箇遣る。坊や屡々餅を頂き蒔草を恵まれ、或いは諸類を贈らるる等、数々の恩沢に浴す御礼返しに遣ることにせり。道路泥濘あるに、坊やみわさんと出て行く。泥足にて販り来る。戦時勤勉手当交付、待ちかねるようにして五円請取り買物さる。

昭和19年2月25日（金）

晴れ、時々曇り。神様のお祭祀、紋平穿き坊や出掛く。足袋を新調のを穿かす。然るに単独にて小用達するので、紋平は小便にまみれ、冷ゆるままに頻繁小便し、濡らすと云ふ繰返しの状態なり。アラレ沢山頂き、餅も頂き来る。余、夕飯拵えて待つ。頃日雑炊すること多し。此日も同断。割合早く寝る。

昭和19年2月26日（土）

快晴、風なく爽やかなり。切手請求みわさん坊連れ行かるる手筈なりしも、飯食べ中途便所に行きなどするうち、十時に垂（なんな）んとす。余遂に出掛く。現物請取りには余行く。みわさん坊と共に外出中、洗濯物概ね乾く。昨夜二回失敬し、敷き布団二枚乾かす。梅花盛りを過ぎたり。湯煖房の世話、余親しからず。みわさん坊やを寝かし自らも寝る。十時起きて食器洗ひ、炊事の仕度などして十二時を過ぎて寝らる。

昭和19年2月27日（日）

曇り。午前中みわさん坊連れ外出。午後より余、里芋の皮剥き二時間余を費やす。潮湯に行く積もりらしかりしも、時間の関係と、天候前日と違ひ風寒かりし為、中殿に行かれ次いで常会に臨まる。此の間坊に林檎（先日横田より貰ひ来たりし一ヶ）をおろして遣る。蜜柑も食べる。今日の臨時常会は、飛行機献納資金募集の件なり。二十円出資のこととす。森田さんも同様二十円と切り出す。

昭和19年2月28日（月）

3100になるまで七拾余円の残額に対し、請求葉書請求せず。余請取り来る。みわさん坊や連れ外出。遅く販らる。夕食遅る。うどん作らる。余三日乃至五日間、絶食せんとす。仕事が遅いと謂ふたことから、夜十時頃までもかかると云ふ。ぶつぶつこぼすこと、余大嫌い。兎角ぶつぶつこぼす、聞き飽く。此夜上本さん、班長さんと来たり。事務室に於いて寄付金増額を申出らる。余収支の関係を公開して、支出の途なき所以を述べ拒絶す。みわさん外出先より販り、みわさんの意思を尊重、二十円増額、通算四拾円を寄附することに決定す。明朝、其の事を報告のこととす。

昭和19年2月29日（火）

曇り。会長さんの家にて班長会議。債券不着。其の旨通知に行かれた際、会議に列席の班長続々来たり。二階の会議室に消える処、会長さんより列席を慫慂され逃げる様にして販って来らると。此朝、班長に増額を通告さる。何れも二十円、組は増額せし由。